

紹介患者さん診療・検査事前予約ご利用のご案内

医療機関用 外来診療・検査事前予約 FAX予約

待ち時間を短く患者さんが円滑に診療・検査を受けられるように、病院及び診療所の先生から『事前予約』をお受けしております。

●予約方法

①「紹介患者さん事前予約申込FAX用紙」に必要事項を記入し、地域医療連携室までFAXで送信してください。



②直ちに、予約をお取りし、「予約受付票」をFAXで送信します。ただし、受付時間外のFAXについては、翌営業日の朝にご連絡致します。



③患者さんに以下をお渡しください。

- ・予約受付票
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・フィルム等



④ご来院時、患者さんには以下をお持ちいただきます。

■先生から受取ったもの

- ・予約受付票
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・フィルム等

■別に必要なもの

- ・健康保険証
- ・お薬手帳又はお薬のわかるもの
- ・診察券



..... 予約受付先

●京都市立病院地域医療連携室

TEL (075)311-5311(代) (内線2113)

FAX **(075)311-9862(専用)**

●事前予約医療機関専用電話

(075)311-6348

事前予約受付時間(日曜・祝日を除く)

平 日/8:30~20:00(木曜日は17:00まで)

土曜日/8:30~12:00

FAXは、24時間お受けしています。

地域医療連携相談業務

平 日/8:30~17:00(月曜日~金曜日)

患者さん用 紹介患者さん事前予約センター 電話予約

先生からの紹介状があれば、患者さんからのお電話で、ご自身のスケジュールに合わせた予約をお取りいただくことができます。

※担当医師の指定、検査の予約はできません。

●予約方法

①お電話をされる前に、患者さんには以下をお手元にご用意いただきます。

- ・事前予約申込票(必要事項記入済みのもの)
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・診察券 ※初診でもご予約可能です。



②患者さんから『事前予約センター』へお電話いただきます。

専用電話番号 **(075)311-6361**



受付時間/月~金(9:00~17:00)

※土・日・祝・年末年始(12/29~1/3)を除く

●ご予約は前日17:00まで受付しております。

▶電話予約時に確認させていただく内容

- ・患者さんのお名前(漢字・ヨミガナ)
- ・生年月日・性別
- ・ご連絡先(電話番号等)
- ・紹介元医療機関名・予約診療科



③ご来院時、患者さんには以下をお持ちいただきます。

■先生から受け取ったもの

- ・事前予約受付票(必要事項記入済みのもの)
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・フィルム等

■別に必要なもの

- ・健康保険証
- ・お薬手帳又はお薬のわかるもの
- ・診察券

健康診断や人間ドック、各種検診で「要精密検査」となった場合でも、上記と同様の手続きで事前予約が可能です(初診でも予約可)。ぜひご利用ください。

※ただし、市立病院で人間ドックを受けられた場合は、健診センターでの予約となります。

専用の申込用紙は、京都市立病院のホームページからダウンロードが可能ですので、是非ご利用ください。



地方独立行政法人 京都市立病院機構

京都市立病院

地域医療連携室

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1-2

TEL 075-311-5311(内線2115) FAX 075-311-9862

事前予約医療機関専用電話(地域医療連携室直通) 075-311-6348

<https://www.kch-org.jp/>

京都市立病院

連携だより

vol.33
令和元年7月

- 新任部長・副部長ごあいさつ
- 「精神神経科」のご紹介
- 「眼科」のご紹介
- 事前予約ご利用のご案内

京都市立病院機構理念

京都市立病院機構は

- 市民のいのちと健康を守ります
- 患者中心の最適な医療を提供します
- 地域と一体となって
健康長寿のまちづくりに貢献します

京都市立病院憲章

- 1 質の高い安全な医療を提供するとともに、地域の医療水準の向上に貢献します。
- 2 患者の権利と尊厳を尊重し、心のこもった医療を提供します。
- 3 救急や災害時における地域に必要な医療を提供するとともに、地域住民の健康の維持・増進に貢献します。
- 4 病院運営に参画する事業者等とのパートナーシップを強め、健全な病院経営に努めます。
- 5 職員の育成に努め、職員が自信と誇りを持ち、全力で医療に従事できる職場環境を作ります。

●●● 新任部長・副部長ごあいさつ ●●●



整形外科・脊椎脊髄外科 部長 竹本 充

この度、平成31年4月1日付けで京都市立病院整形外科・脊椎脊髄外科部長を拝命いたしました。当院へは平成27年8月に副部長として着任し、主に脊椎疾患の治療に携わってきました。最近、京都内外から脊椎疾患によりADLが損なわれた方をご紹介いただくことが増えてきており、現在は年間200-250件の脊椎手術を行っております。当院が市立病院であることもあってか、手術を受けられる方にはご高齢であったり内科的疾患を抱えたりしている方も少なくないのですが、他科の先生方と連携しながら、少しでもADLが改善するように治療を進めています。

近年、脊椎脊髄外科分野は大きな発展を遂げており、新しい診断法や治療法が開発され、より安全で低侵襲な治療が可能になってきました。私自身、そのような新規治療の開発に関わることも少なくないのですが、新しい技術は治療における多くの選択肢の一つに過ぎないということを忘れないようにしています。まずは、本質に根ざした正しい診断を下すこと、その上で、自分の持っている技術のうちで最も有効な方法を選択すること、この2点を大切に治療にあたっています。

治療としては、手術治療だけでなく、投薬やブロックなどに加えた筋トレやストレッチを含めた体の使い方に対する指導なども行っています。脊椎疾患には最大の治療効果が得られるタイミングがあり、最適な時期を逸してしまうと回復が不十分となったり非常に時間がかかってしまったりすることがあります。脊椎疾患を有する患者様の中には、神経症状や痛みを抱えていても年齢や内科的疾患などを理由に治療を諦めている方や、手術を受けても結果が思わしくないままに何年も経過してしまった方などが、決して少なくありません。そのような方がおられましたら、最適な治療機会を逃さないためにも、是非一度脊椎外来へご紹介いただくと幸いです。

京都市立病院には、病棟や手術室などにおける質の高いハードウェアと、モチベーションの高いスタッフが充実しております。このような素晴らしい環境で、自分の専門である脊椎脊髄疾患治療に精一杯の尽力をさせていただきます。今後ともご指導の程、よろしくお願いいたします。

略歴

平成9年	京都大学医学部卒業
平成12年～15年	京都市立病院（後期研修）
平成15年～19年	京都大学大学院（人工材料研究）
平成19年～25年	京都大学附属病院整形外科助教（脊椎グループ）
平成25年～27年	フランスポルドー大学附属病院（脊柱変形治療）
平成27年～	京都市立病院

■ 脊椎外科 事前予約枠

月	火	水	木	金
—	竹本 充	石井 達也	—	竹本 充

専門 脊椎脊髄疾患、脊柱変形（側弯症、後弯症）

所属学会 日本整形外科学会、日本脊椎脊髄病学会、日本側弯症学会、など

資格 日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会指導医

整形外科 副部長 金 永 優



この度、平成31年4月1日より京都市立病院整形外科副部長を拝命いたしました金永優（きん よんう）と申します。平成22年から平成26年まで京都市立病院で勤務し、その後滋賀県の病院で3年勤務した後に渡仏しパリ第6大学Pitié-Salpêtrière病院で2年間臨床、研究に携わり今年3月末に帰国いたしました。研修医の頃から股関節外科医を志し臨床、研究に従事し、当院でも6月1日より股関節外科外来を開院させていただきました。私の師匠である田中千晶先生が築かれた京都市立病院の股関節治療の伝統を引き継ぎ、さらに発展させ、今後京都における人工関節、股関節治療の中心的役割を担うよう努力していきたいと考えております。

股関節外科と私

私が股関節外科医を志したきっかけの一つが、京都大学で研修医時代に人工股関節の手術を受けられた患者さんから届いた一通の手紙です。そこには「長年の痛みから解放されて人生が変わりました」と書かれていました。その時の喜びは今でも覚えています。またその頃に私自身が変形性股関節症であることがわかりました。絶望していた私に「股関節が悪い患者さんの気持ちがわかる良い股関節外科医になれるよ」と当時の准教授に勧められました。今でもその気持ちを胸に毎日の診療を行っています。

人工股関節置換術の発展と諸問題

人工股関節置換術は近年の整形外科の手術の中で最も成功を収めた手術の一つであり、長期成績の安定した変形性股関節症に対する非常に優れた治療です。本邦でも年間6万件以上の手術が施行されており、患者さんの満足度も非常に高い手術です。以前は疼痛を改善させるために行っていた手術ですが、近年は趣味やスポーツなど生活の質の向上のために手術を希望される方も増加しています。手術後はいくつかの注意点がありますが、普通に日常生活を送れるようになります。

しかし、手術後の脱臼や感染、骨折など重大な合併症があることも事実です。また、患者の高齢化に伴い脊椎疾患が併存する患者数が増加しており、人工股関節の術後成績にも影響を及ぼし、遅発性の脱臼など新しい問題も起こっています。これらの合併症を少しでも抑制できるようにスタッフが一丸となって日々努力しています。お困りの症例があれば、是非一度ご紹介ください（股関節外来：月曜日・木曜日）。

最後に

沢山の方々が股関節の痛みで長年苦しんでおられます。人工股関節の手術を受けられた患者さんの話を聞くと「もっと早く手術すればよかったです」とおっしゃる方々が沢山いらっしゃいます。すべての患者さんが長年の痛みから解放されてハッピーな人生を送れるように全力を尽くします。今後ともよろしくお願いいたします。

略歴

平成13年	韓国ソウル大学医学部卒業
平成18年～22年	京都大学大学院 （骨格形成、機能制御グループ）
平成22年～26年	京都市立病院（医長）
平成26年～29年	滋賀県立成人病センター（医長）
平成29年～31年	フランスパリ第6大学附属病院 （脊椎股関節治療）
平成31年～	京都市立病院

- 専門** 関節疾患（股関節、膝関節）、人工関節置換術、関節温存手術
- 所属学会** 日本整形外科学会、日本人工関節学会、日本股関節学会、など
- 資格** 日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医

「精神神経科」のご紹介



精神神経科部長
宮澤 泰輔

はじめに

精神神経科は1992年に設置された診療科です。発足から30年近く経過しますが、患者層もこの30年で大きく変わってきており、かつては割合の多かった統合失調症やパーソナリティ障害が減少した一方で神経症圏やストレス関連障害の割合が増えています。このような傾向に対応するために数年前から毎週金曜日にストレス外来を設置して対応しています。

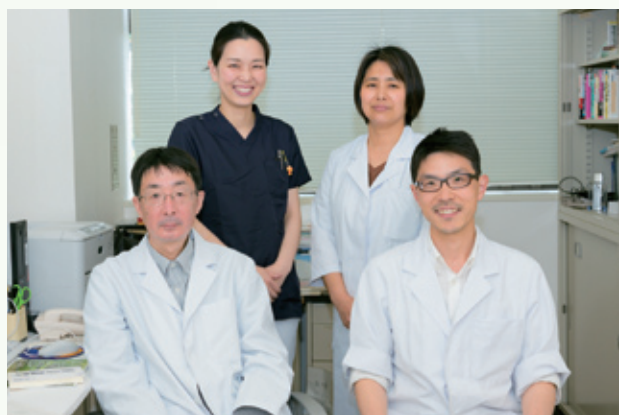
また近年、医師不足により総合病院の精神神経科は全国的に見ても長期休診や実質的に新患の受け入れを中止する医療機関が増えていますが、今後も精神科的治療が必要な方に適切な医療をしていくという体制は維持したいと考えています。

基本診療方針

1. 精神科領域の幅広い疾患への対応
2. 緩和ケアへの取り組み
3. 精神保健福祉相談の取り組み

診療体制

2名の常勤医師が診療に当たっています。他に臨床心理士1名と精神保健福祉相談員1名が勤務しており、それぞれの専門性を持ったスタッフがチームとして関わっています。



診療内容

うつ病、パニック障害、統合失調症、認知症、神経症性障害、ストレス関連障害、睡眠障害など幅広い精神疾患に対応しています。

より包括的な診療を求める社会の動きに対応し、身体疾患患者の精神面へのケアが重視されるようになってきています。当科では初診患者の約2～3割が院内の他科からの紹介となっており、体と心の橋渡しとしての役割も担っています。また、他科に入院中で精神科的問題をかかえている方にも精神科医が関わっています。主にはせん妄ですが、入院中の抑うつ状態、不安、不眠も多くその割合は年々増加傾向にあります。特に、癌患者においては何らかの精神症状が高率に認められ、抑うつ状態の頻度は20%～38%です。このような状態に対して、当科医師による薬物療法や臨床心理士による心理療法を行うなど、一般身体疾患治療や緩和ケアにおける精神科の役割は増えてきています。

病診連携

当院は精神科入院ベッドがないため、精神科的問題で入院が必要な方については対応できませんが、地域の開業医の先生方からの紹介は少しずつ増えてきております。多いのはストレス関連疾患と認知症の周辺症状に対する治療依頼です。皆様のおかげで紹介率も徐々に増加傾向で平成30年度は49.3%に増加しました。

今後も紹介率の増加を目標に開業医の先生方からの依頼には積極的に応えていきたいと考えております。

おわりに

精神神経科の開設当初はスタッフと患者さんが半年に1回程度レクレーションで嵐山などに出かけるということをしていた時代もありました。現在では外来数も増加し、また緩和医療などのチーム医療にも関わっておりそのような余裕はなくなりましたが、今から思えば良い時代だったのかも知れません。しかし、治療という枠組みだけではなく、中待合で気軽にスタッフに日常生活相談などを行えるような環境作りは現在も続けています。

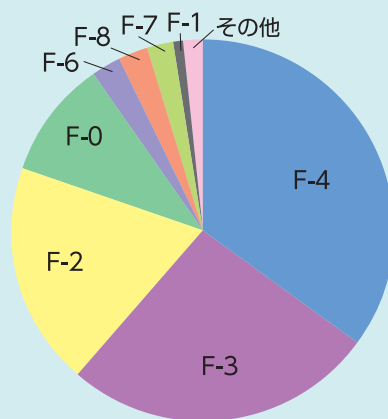
今後は、患者の高齢化に対応するため、介護保険や老人福祉分野において精神保健福祉士の相談業務を充実させていきたいと考えております。



■ 外来状況（平成30年度）

外来患者数 12,177人（延べ）
初診患者数 142人（実人数）
紹介率 49.3%

■ 図1：ICD-10による疾患別割合



F-4	神経症性障害、ストレス関連障害 障害身体表現性障害	35.0%
F-3	気分（感情）障害	26.2%
F-2	統合失調症、分裂病型障害 および障害	19.2%
F-0	症状性を含む器質性精神障害	10.0%
F-6	成人の人格および行動障害	2.6%
F-8	心的発達の障害	2.5%
F-7	精神遅滞	2.1%
F-1	精神作用物質使用による精神 および障害	0.8%
その他		1.6%

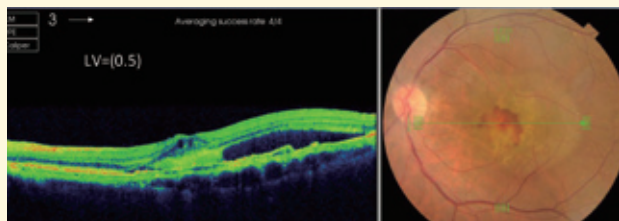
「眼科」のご紹介

市民のニーズに答え、幅広い眼科診療を安全に提供する

当科の特徴

様々な全身疾患の背景を持ち、多種にわたる眼科疾患症例の方が受診する京都市立病院では、幅広い知識を持って、間違いのない診断、治療に結びつける、確実な一般眼科診療が求められます。さらには、科学の進歩に伴い、新しい眼科医療も、安全性を確認しつつ提供できる体制の確立が望まれます。

ここ数年で、各種黄斑疾患に対するVEGF阻害薬の硝子体注射治療は普通の医療手段となりました。当科では得意な専門領域を持ちつつ、時代の進歩に遅れず、全ての眼科疾患に対してきちんと診療していくことを目指しています。



加齢黄斑変性 ▲治療前 ▼治療後

様々な背景を抱えた白内障手術症例

社会の高齢化に伴い白内障の症例数が増加しています。手術も短時間かつ安全で、ほとんど痛みの無いものとなっており、手術が容易なようにアピールされますが、認知症の方や、糖尿病、心疾患、脳卒中、神経疾患を伴う例、アトピー性皮膚炎や長期のステロイド薬投与に関連する若年の白内障など、まだまだ難しい白内障手術症例も数多く存在します。

当科ではそういった症例に対して、総合病院の特色を生かし、全身麻酔下での手術や内科的バックアップを手配し、さらに病棟でも適切な看護の下、安全に治療しています。

術後視機能の向上の点から、この春に保険診療での使用の認可がおりました、レンジスコンフォートを導入

致しました。遠方だけでなく、中間距離もカバーするレンズで、術後の満足感向上が期待されます。適用を慎重に選択しながら、使用症例を増やしていきたいと考えています。



白内障手術

網膜硝子体疾患に対する治療の選択

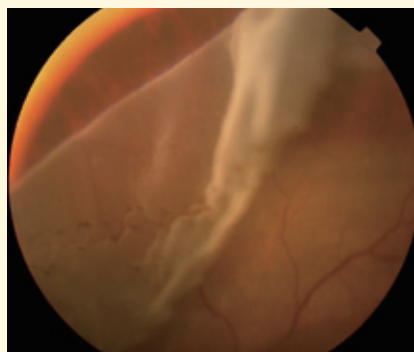
アトピー性網膜剥離や巨大裂孔網膜剥離、強度近視黄斑円孔網膜剥離などの重症網膜剥離や、増殖膜形成を伴った増殖糖尿病網膜症、網膜細動脈瘤破裂や加齢黄斑

変性による黄斑下血腫など、難しい網膜硝子体手術症例についても適切に対応致します。

黄斑上膜は光干渉断層計（OCT）で高頻度に発見され

る疾患となりましたが、硝子体手術をせずに経過観察のみで悪化しない症例も数多くあり、症例毎に最適な治療を選択させていただきます。

加齢黄斑変性や強度近視黄斑部脈絡膜新生血管、網膜静脈閉塞症、糖尿病網膜症（黄斑症）に対しては、VEGF阻害薬の硝子体注射で病態の悪化を止められるものが多くあり、適切な時期に御紹介頂けますと視力維持につながる治療が可能となります。

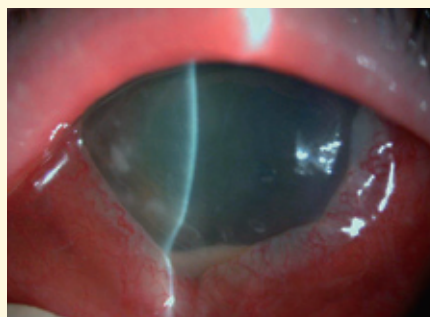


巨大裂孔
網膜剥離

重症角膜感染症と眼部不快感につながる眼表面疾患の診療

感染性角膜潰瘍は重症化すると角膜混濁を残して恒久的な視力低下につながります。細隙灯顕微鏡検査所見に併せて角膜潰瘍部から菌を同定することが必須で、検査科細菌検査室と連携して、迅速に潰瘍からの擦過物を鏡検、培養し、最適な抗菌剤投与を行っています。

一方、頑固な眼部不定愁訴で悩まされる症例では、眼表面の恒常性が損なわれている場合が多く、しばしばマイボーム腺をはじめとする眼付属器の病的状態が関与しています。病因を明らかにするとともに、病態について御本人にも懇切丁寧な説明をさせていただきます。



角膜潰瘍

緑内障診療と緑内障治療点眼薬の選択

近年、多種の配合剤や、新しい機序で眼圧を下降させるRhoキナーゼ阻害剤が登場してきており、眼圧下降薬剤選択に迷うことも多くなっています。最適な薬剤の組み合わせを見つけることや、手遅れにならずに手術を導

入するタイミングの決定につき、いつでも御相談ください。最近では、眼内から繊維柱帯を切開するsuture trabeculotomyの症例が増えています。

小児眼科と斜視診療

3歳児検診の主たる紹介先である当科では、伝統的に斜視診療、小児眼科診療に力を入れています。令和の時代に入り、この4月から赴任しています張医師により、小切開斜視手術が導入され、小児の斜視はもとより、成人の斜視手術にも精力的に対応できる体制が整いました。斜視の症例も幅広く御紹介ください。

現在は、眼科医師7名、視能訓練士6名の人数で、多くの来院患者にも対応できる体制をとっています。これからもさらにactiveで信頼できる眼科となるよう努力して参ります。

